

22 病理・臨床検査科

次世代を担う病理医をめざしましょう

国立がん研究センター東病院病理診断科の目指すもの

臨床と基礎をつなぐ病理診断・トランスレーショナルリサーチ（TR）の実施
がんに対する適切な病理診断のみならず、臨床・基礎の橋渡しとなれる次世代の病理医に必要な知識・技術を習得できます。

国立がん研究センター東病院病理診断科の特徴

- ・ ISO15189 認定を受けた病理検査室での研修。
- ・ 豊富な症例・詳細な臨床情報に基づく病理診断の基礎を習得。
- ・ 担当臓器制による高い専門性。
- ・ 臨床各科や先端医療開発センターとの連携による基礎研究・TRの実施。
- ・ 研究・開発に対するサポート体制が充実。レジデントの論文指導実績も豊富。
- ・ 多数の大学との連携大学院による学位取得も可能。

国立がん研究センター東病院病理診断科の診療実績（2018年度）

診療科	生検標本	手術標本	細胞診	剖検
血液腫瘍科	398	1	80	1
呼吸器内科	789	0	777	1
消化器内科	192	0	88	1
肝胆膵内科	708	0	714	1
乳腺・腫瘍内科	261	2	108	0
消化器内視鏡科	7514	0	18	0
呼吸器外科	696	617	617	1
食道外科	20	203	13	0
胃外科	120	274	147	0
大腸外科	133	537	31	0
肝胆膵外科	150	282	110	0
乳腺外科	792	372	124	0
小児腫瘍科	1	0	1	0
整形外科	9	0	2	0
皮膚科	24	0	0	0
泌尿器・後腹膜腫瘍科	418	226	924	0
婦人科	121	90	349	0
形成外科	2	0	0	0
頭頸部外科	599	400	354	0
頭頸部内科	54	0	15	0
放射線治療科	154	0	2	0
歯科	12	0	0	0
その他	30	0	6	0
合計（件）	13197	3004	4480	5



各人のニーズにあわせた複数の研修コース

がん専門修練医コース

- 当院は新専門医制度における研修基幹病院ではないため、原則として日本病理学会病理専門医資格取得者を対象としています
- ・ 当院病理科で実施する病理診断（生検・手術検体に対する病理組織診断、細胞診、剖検）を行いながら、病理診断医としてのスキルアップを行う
 - ・ 専門臓器を中心とした研修プログラムの策定が可能
 - ・ 病理組織標本を用いた研究、併設する先端医療開発センターでの基礎研究もしくはTRの実施が可能
 - ・ 連携大学院制度を用いた学位取得が可能

レジデント短期コース（3ヶ月単位、2年未満）

- ・ 病理診断に求められる知識・技術を習得する
- ・ 病理科所属で、基本的に他科ローテートは行わない
- ・ 研修者の希望に応じた柔軟な研修内容の設定が可能
- ・ 病理を専門としない臨床科所属医師も大歓迎

専攻医コース

新専門医制度において連携する基幹施設（H31年4月現在、国立がん研究センター中央病院、東京大学および筑波大学）での病理専門医研修プログラム登録者を対象としています。

研修内容は各基幹病院における研修プログラムの規定に従います。

※全てのコースには応募条件があります。詳しくは当院の研修課程をご覧ください。



研修に関するお問い合わせ先

国立がん研究センター 東病院
病理・臨床検査科

科長：
桑田 健

メールアドレス：
tkuwata@east.ncc.go.jp

東病院病理・臨床検査科レジデントプログラム HP
<https://www.ncc.go.jp/jp/nccce/clinic/pathology/resident/>



Facebook 東病院 教育・研修情報
<https://ja-jp.facebook.com/nccasteducation/>

